

貫索星中殺

貫索星と云う星の性情には「頑固」「自我心」「独立心」などという意味合を含んでいます。そして、それを裏側で支えているのが、守りの本能（守備本能）なので、自分の立場を積極的に固めようとするのです。

これが中殺されると、表面的には貫索星の性情が消えて、別な形で出て来ます。

（あるいは強調されて出て来る場合もあります）

貫索星中殺の人は極端なまでに「わがまま」になったり、仕事に対しても無責任になったりします。

貫索星の頑固がさらなる頑固になる反面、意志薄弱…というアンバランスなものにもなるのです。たとえば、自我を異常なまでに押し通したりして、人に厳しくおのれに優しくといった、矛盾した行動が周囲のひんしゅくをかかったりします。また、職場のなかでも調和が保てず、仕事を途中で投げ出したりもしますので、いわゆるのけ者扱いになる人を調べてみると、以外と貫索星中殺の人が多いのです。

しかし、中殺者の特徴としてどんな人とも歩調を合わせやすいので、独立するよりは集団にいたほうが良いのです。しかも補佐役とか参謀役のような生き方をするほうがベストだともいえます。

貫索星中殺の人が独立しますと、波乱の人生を送ることになります。

貫索星中殺の人は「純粋なまでの一一本気」と、他人の言葉にまどわされやすい「幼児性」が同居していて、世の中の美しいものだけを見つけだそうとします。

ですから、高尚な趣味に没頭しやすく、そのために無欲な生活のなかに生きている人が多いのです。

貫索星という星は、人物に置き換えると「自分自身」「きょうだい」です。

ですから、貫索星中殺の人には「きょうだい」との間に中殺の異常現象がおきるのです。

貫索星中殺の人は「きょうだい」と仲たがいをしたり、意見が合わなかったりする人が多い。それもタチの悪い事に中殺者自身、仲が悪いということの自覚が全くないのです。それどころか中殺者本人は仲が良いと思っていますのです。

このようなケースの場合(中殺者の多くの人は)兄弟間に意志の疎通がないような状態が殆どですが、中殺者は自分は「きょうだい」のことを思って、いろいろとやっている…つもりでいるのです。

中殺者の「きょうだい」にしてみたら、迷惑この上もない話なのです。

貫索星中殺の人を交えて「きょうだい」が協力しての事業を起こそうとお考えの方は、お止しになる方が良いと思います。その事業は失敗することが殆どですし、もし成功なさったとしてもその儲けを分ける場合、かなり揉めることになります。

遺産相続のときにも、中殺の異常現象がおきて「きょうだい」と仲たがいをしたり、意見が合わず、長い間揉み合っているケースをよくみます。

中殺の異常現象は「きょうだい」との間に中殺現象がおきるのですから、「きょうだい」との死別・離別・生き別れ…というかたちで中殺の現象がおきる場合も多いのです。

貫索星中殺の人の人体星図を調べてみて、禄存星か司禄星が一つでもあれば、幸いです。そうしますと上記のような中殺の異常現象が弱まります。しかし、中殺者の性格までは和ぎません。